



### 3章 中央公園の現状と課題

#### 3-1 中央公園について

時代ごとにまちにおける機能を変化させながらも重要な役割を担っています



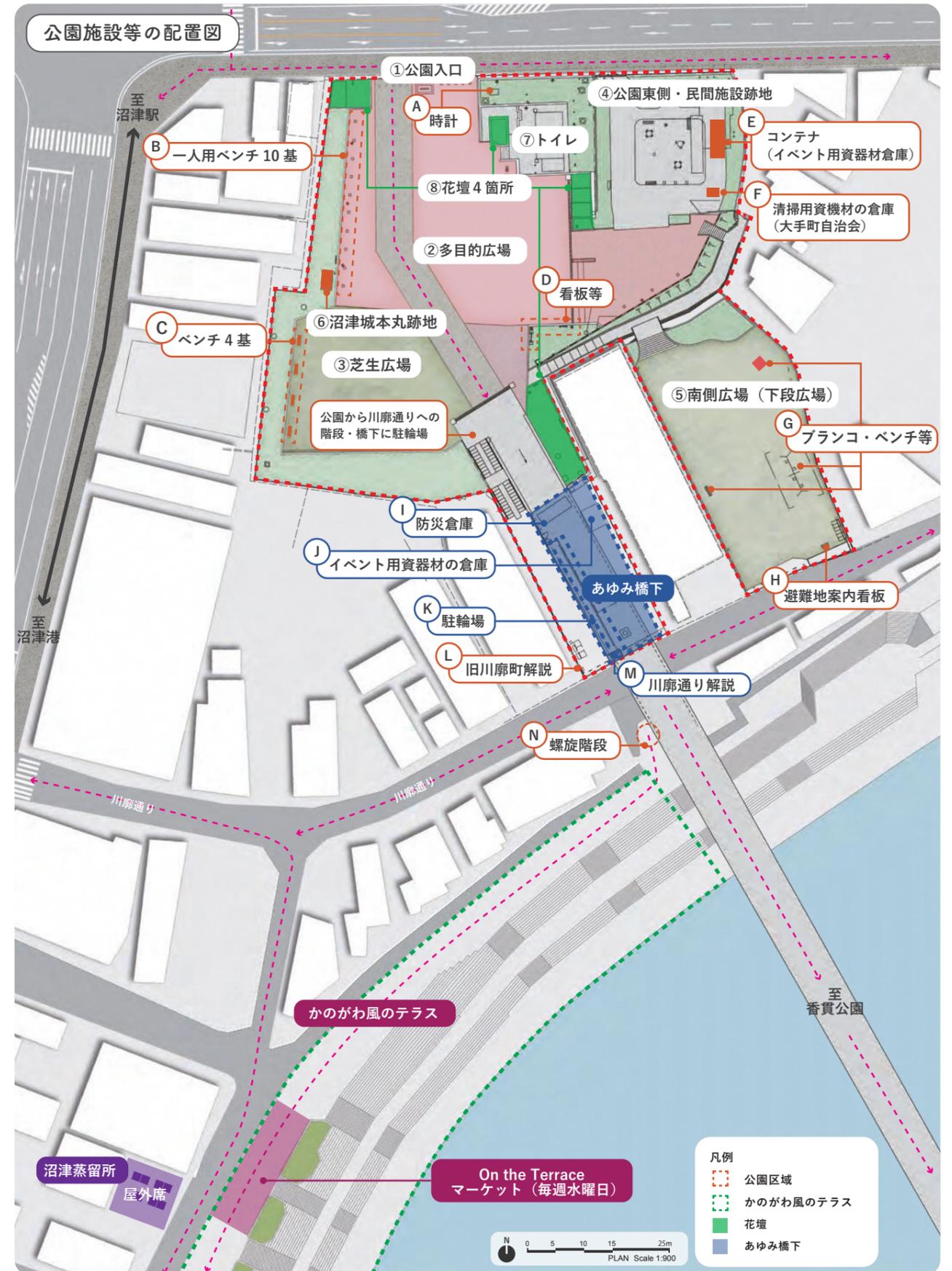
#### 公園概要

所在地 : 沼津市大手町4-185-4  
 公園の種類 : 街区公園  
 面積 : 6,100 m<sup>2</sup>  
 開設年月日 : 昭和45年6月30日  
 都市計画の位置付け : 市街化区域 (商業地域)、準防火地域内の都市計画公園  
 歴史的な位置付け : 三枚橋城、沼津城、沼津兵学校跡地  
 公園の所有・管理 : 沼津市

#### 災害時情報

沼津市地域防災計画 : 避難地 (防災倉庫あり)  
 狩野川・黄瀬川洪水ハザードマップ: 浸水3~5m 想定 (想定最大規模レベル2)

#### 現在の公園の状況



主な公園施設等



周辺の公共空間活用事例：かのがわ風のテラス

かのがわ風のテラスは中央公園から徒歩1分程にある狩野川の護岸に整備された空間です。階段状に整備されており、川面まで下ることが可能です。テラスでは毎週1回のマーケットやステージ利用、川でのアクティビティなど多様な活用が見られます。

また、沼津の原材料を使ったクラフトジンの蒸留所「沼津蒸留所」がテラスに面して営業されているなど、川での様々な過ごし方が可能となっています。

※前頁にて位置を明記



歴史的経緯

昭和45年から現在まで、50年あまり市民に親しまれてきた中央公園は各時代ごとに、まちにおける機能が変化しながらも、重要な役割を担ってきました。

時代ごとの3つの役割

**安土桃山** ● **三枚橋城 (1579年～1614年)**  
三枚橋城は、「北条氏政書状」によると天正7年(1579年)、武田勝頼が築城したとされています。慶長19年(1614年)、三枚橋城は廃城となり、以後160余年間沼津に城はありませんでした。

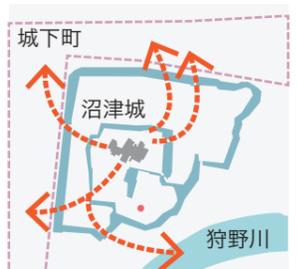
**江戸** ● **沼津城本丸 (1777年～1873年)**  
江戸時代の安永6年(1777)に、三枚橋城を利用して築城されており、三枚橋城と比べ規模は小さく、富士を背後に南は狩野川から千本松原越しに駿河湾が臨まれました。沼津は城下町として発展し、現中央公園の場所は当時の町を形成する中心的な役割を担いました。また駿河湾の潮が見えることから観潮城という別名もあったと言われています。

**明治** ● **沼津兵学校 (1869年～1874年)**  
明治元年(1869)に、江戸幕府が残した膨大な書跡・器械や優れた人材の活用を図るため、沼津城の二の丸跡地に沼津兵学校が開校されました。徳川家の家臣である14歳から18歳を対象に、最新式の学問と技術を備えた士官養成機関として、近代日本の学制、兵制の確立に大きな役割を果たしました。

**現在** ● **公園 (～現在)**  
現在はあゆみ橋への動線も含んだまちなかを代表する公園で、散歩や憩いの場としての利用や環境美化を行うラジオ体操友の会、スケートボード利用等の多様な利用が見られます。イベント時には沼津市内外からの多くの集客があり、かのがわ風のテラスと連携した活用も見られます。

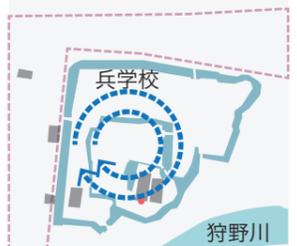
まちにおける機能

実践する・発信する  
リードする



城下町への発信力を持ちながら街中をリードする場所

学ぶ・実験する  
チャレンジする



学ぶ、実験する、チャレンジできる場所

集まる・安全安心  
オープンである



人々が集まり多様な活動を受け入れる場所

上記のような歴史的変遷を辿り、現在は公園内に沼津城記念碑や当時を物語るモニュメントの設置がされています。長い歴史の中で、まちの中心としてこの場所が担ってきた本質的な役割や機能を、未来の中央公園においても改めて検討し、再整備の方向性を定めます。

### 3-2 中央公園の現在の使われ方

## 日常では子どもの遊びやスケートボード等の利用がみられ イベント時には立地と規模を生かした活用が中心です

現在の利用・活用内容を把握することで、中央公園のポテンシャルや将来像を導き出します。  
中央公園は、日常的に憩いの場として親しまれるとともに、イベントやマーケットとしての活用も行われています。一方、あゆみ橋への動線が公園内を縦断していることや、階段やフェンス、芝生広場やハード舗装（平板舗装等）などにより、それぞれのゾーンが分断されています。また、中央公園は、あゆみ橋や螺旋階段により、狩野川の護岸や対岸の香貫公園に接続しており、これら近接エリアとの連携や、分断された公園内が一体として活用できるようになることで、今まで以上に日常的な利用、イベント、マーケットなどの活用が期待されます。



#### ①ラジオ体操友の会による毎朝の環境美化



ぬまづまちピカ応援隊の参加団体である「ラジオ体操友の会」が毎朝中央公園の環境美化に努めています。

#### ②市民団体・企業により維持される花壇



花とみどりのまちづくりを進めていくために設置した花壇で主旨にご理解いただいた団体や企業の方々が植え替えや草取り、水やり等の管理をしています。

#### ③シニア世代・子育て世代・子どもの利用、保育園の散歩、平日のシエスタ（ハンモック等の設置）



周辺の保育園からの散歩、ベビーカーを利用している親子の憩いの場となっており、高木の足元にあるベンチ4基には自転車で訪れた周辺住民の利用も見られます。中央公園で月1回のマーケットを行う週末の沼津実行委員会による公園内のハンモック等の設置など、公園の日常的な利用を促進する取組「平日のシエスタ」が行われています。

#### ④独立ベンチの1人利用



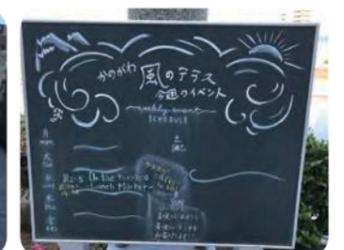
近隣の就業者やシニア世代による1人利用が見られます。ベンチを各自自使用しながら、会話する様子も見られます。

#### ⑤スケートボードの利用

#### ⑥子供の利用が多く見られる



#### ⑦螺旋階段から狩野川への移動



南側広場には遊具が設置されているため、子どもの利用が多く見られます。一方で、奥まわって視認性も低いことから子ども1人での利用を制限する保護者もいます。

螺旋階段を降りると狩野川の右岸にある、かのがわ風のテラスに降りることができます。かのがわ風のテラスには、週に一回のマルシェや蒸留所などがあり川辺の空間を楽しむことができます。

イベント利用：中央公園でのイベント活用の事例を参照し、イベント時の利用を把握します。

## 「THIS IS NUMAZU」

沼津の文化を活かし、多くの人に愛される美酒美食の祭典  
中央公園、狩野川、あゆみ橋が一体的な活用をされています！



1 公園と狩野川を一体的に活用した大規模なイベント

2 沼津の美酒美食を集めた様々な地元事業者店舗が出店

3 沼津の文化を活かしたイベント

令和元年（2019年）9月に第10回目の開催となった THIS IS NUMAZU は、中央公園を代表する大規模なイベントです。北には「富士山」、南には「駿河湾」とその高低差 6,000m に挟まれた沼津の稀有な自然環境は、豊富な山海の恵みをもたらし、素材への敬意を忘れない一流の料理人、清冽な水から生まれる美酒、多彩な BAR 文化を育んできました。そのような沼津独自の文化をイベントとして実施することで、市内外の人々を集客し、沼津文化の醸成を図るものです。

かき氷の屋台から、和食、中華、イタリアンなど様々な出店が並び、広場の中央に設置された「NUMAZU BAR」では、地元のバーを代表するスタッフによる、各店舗自慢のカクテルが提供されるイベントです。他にもかのわ風のテラスでの演奏やあゆみ橋の上での飲食など、中央公園、狩野川、あゆみ橋が一体的に活用されています。



### POINT

元々、沼津にある文化を活かしたからこそ、愛されるイベントに。

THIS IS NUMAZU は平成 21 年（2009 年）に仲見世商店街で行われた小さなビアガーデンイベントが発祥となったもので、沼津や近隣で活躍する生産者や料理人、バーテンダー、アーティストたちによって盛り上げられ、毎年多くの人々で賑わいます。新型コロナウイルス感染症の流行により令和 2・3 年（2020～2021 年）の開催は見送られましたが、10 回にもおよぶ開催がされているのは、元々ある沼津の文化を活かしたことが大きく影響しています。

イベント利用：中央公園でのイベント活用の事例を参照し、イベント時の利用を把握します。

## 「週末の沼津」 魅力的なコンテンツと多様な過ごし方の可能性を探りながら 新しい「日常」を発信しています



1 市民と作る新しい日常を発信!

2 毎月の継続した実施による  
日常への浸透

3 公園の多様な使い方を提案!

週末の沼津は2020年10月から中央公園を中心に始まった、新しい生活様式に対応した試みです。中央公園を含む「旧国一南エリア」はリノベーションまちづくりの重点地区としてエリアビジョンが策定されています。この試みは、ビジョンに基づいた取組の一つです。コロナ禍において、2020年は大規模なイベントは開催できなくなりましたが、イベントとは異なる、市民と作る沼津の新しい「日常」を発信することを目的として、毎月継続して実施されています。

地元沼津の食品、コーヒー、ハンドメイド雑貨、生花など、多様なものが販売されているマーケットに加え、ハンモックや卓球台、こたつなどが設置され、公園での多様な過ごし方ができるよう展開されています。現在は多目的の広場でマルシェ、芝生広場でハンモック、テーブル、ベンチ、卓球台、冬季にはこたつ等が設置されていますが、あゆみ橋やかのがわ風のテラスにおいても活用が進むよう、テーブルセットやカウンターの設置も試みるなど、実験的に継続されています。



### POINT

公園の日常的な利用を進める取組として継続実施されています。

中央公園はその立地や広さから大規模なイベントの活用が目立つ公園ですが、民間発意の新しい取組として始まったのが「週末の沼津」です。新型コロナウイルス感染症の流行により、大きな制限を強いられる飲食等の事業者と市民とを繋ぐマーケットに加えて、公園での多様な過ごし方を体感できるアイテムの設置等が実験的に継続して行われています。中央公園を舞台にしたこの取組を通して、市民による日常的な利用・活用の可能性が広がっています。

現在の使われ方：中央公園の日常的な利用やイベント活用分析

日常では子どもの遊びやスケートボード等の利用がみられ  
イベント時には立地と規模を生かした活用が中心です

中央公園では多様な利活用が行われています。様々な主体による多様な利活用を4つのグループに分けて、分析します。中央公園への関わり方を頻度と関与度を指標として分類します。

**コア層**  
公園活用・運営に関わり、頻度も高く環境美化や定期的な活用をする層



**イベント層**  
THIS IS NUMAZU や マラソン等、年に一回程度の大規模なイベント活用をする層

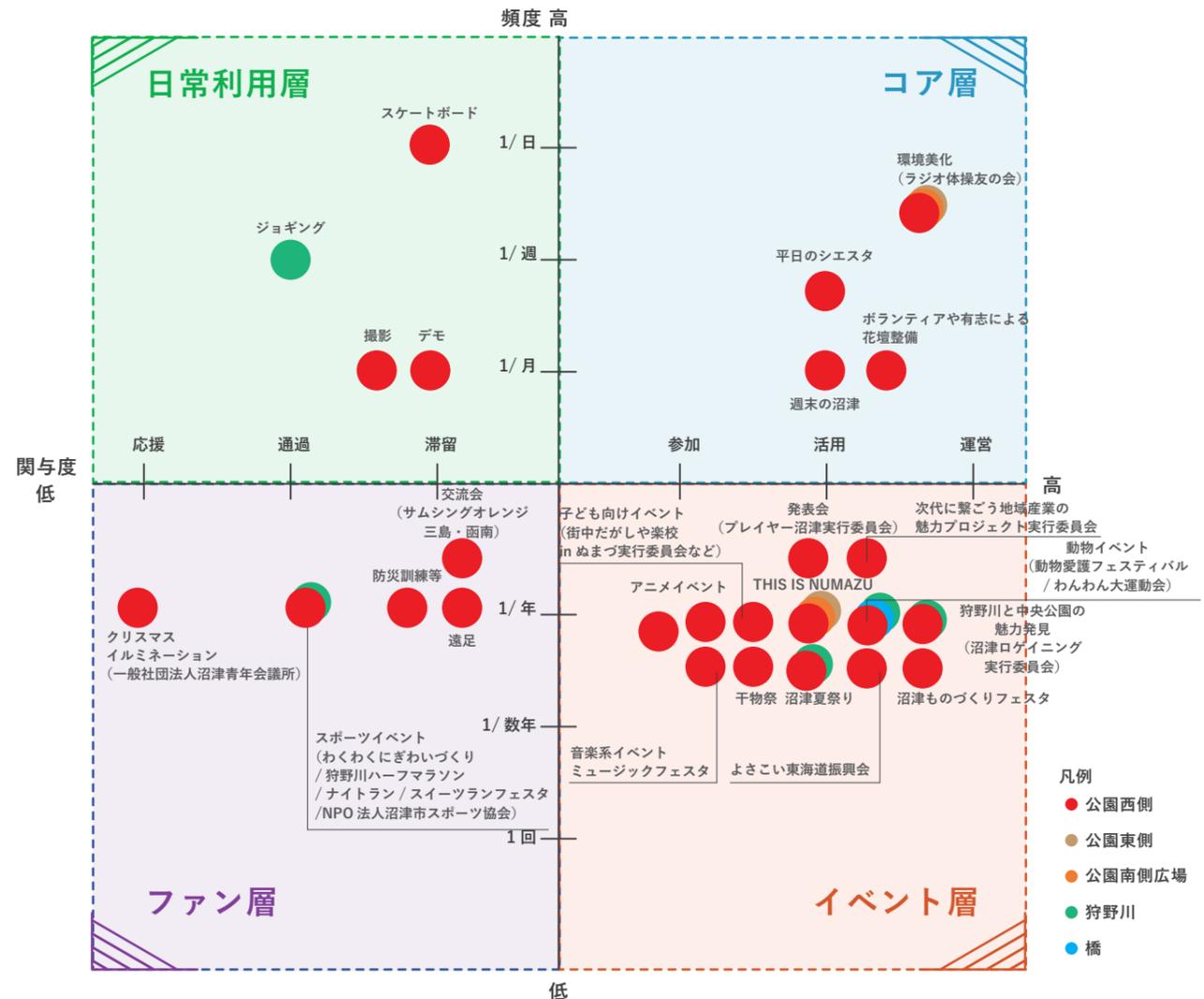


**日常利用層**  
一般的な公園利用、子供の遊び、散歩、ジョギング等の日常的な利用をする層



**ファン層**  
沼津市内外関わらず中央公園に思い入れがあったり、取組を応援してくれる層





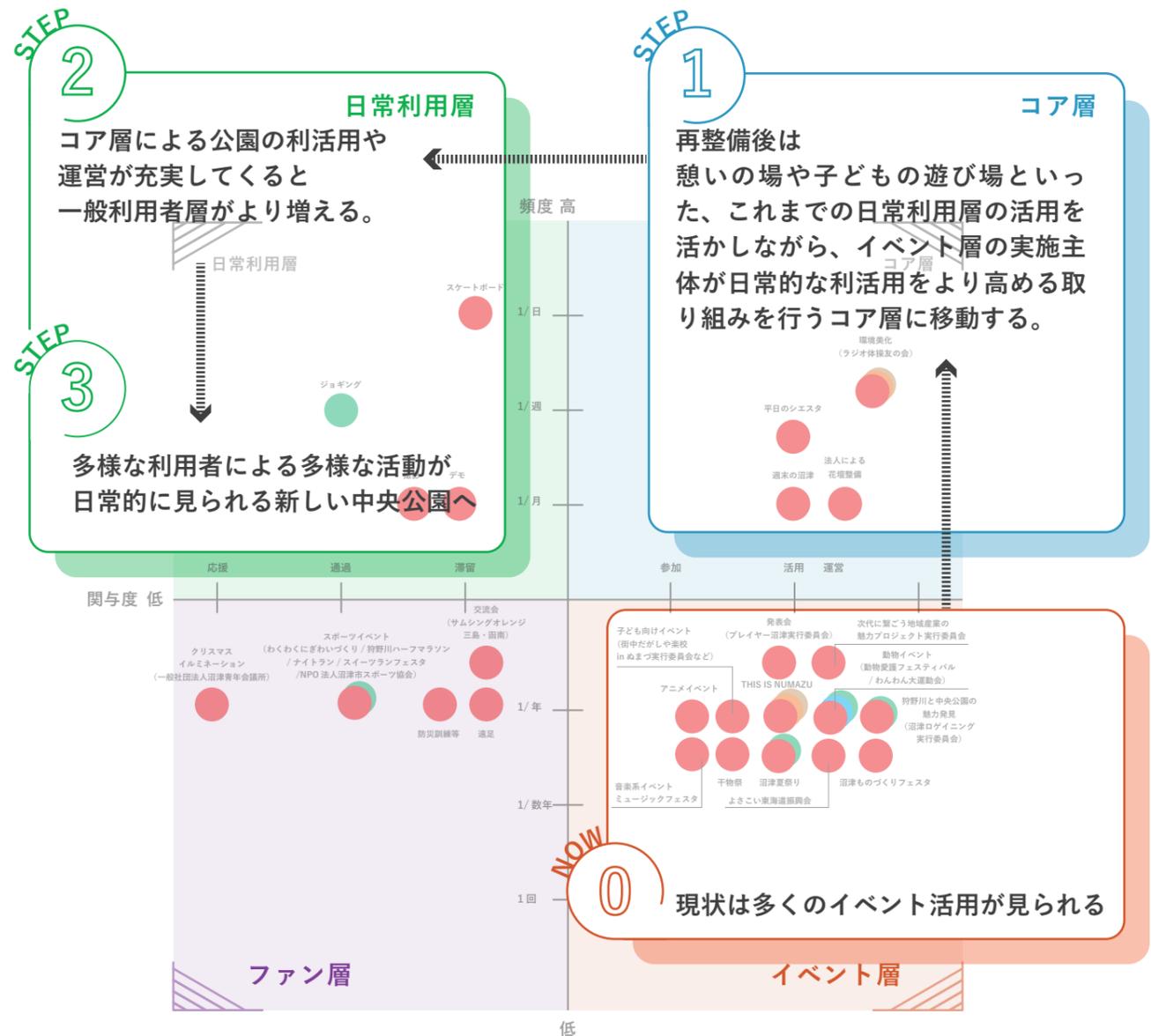
中央公園ではラジオ体操友の会などのコア層の活用の実績があり、イベント層では大規模なイベントや狩野川も含めた活用が見られます。一方で運営に関わる団体と日常利用層が少なく、再整備にあたって各層の方向性を定める必要があります。

未来の使われ方

公園の利活用や運営を充実することで  
将来的には多様な活動が日常的に見られる状態を目指します

- 前頁で示した現在の使われ方から、目指すべき未来の使われ方を整理します。
- 中心市街地まちづくり戦略では、中心市街地をヒト中心の魅力ある場所へと再生し、多くの市民や来訪者が集い、交流し、住まい、回遊する都市の顔として再構築することを目指しています。駅に近い中央公園の再整備では、このまちづくりの方向性と連携しながら進めていく必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症の流行がオープンスペースの価値を見直す契機となりました。地域住民に、より日常的に親しまれ利用される公園を目指す必要があります。

未来へのステップ

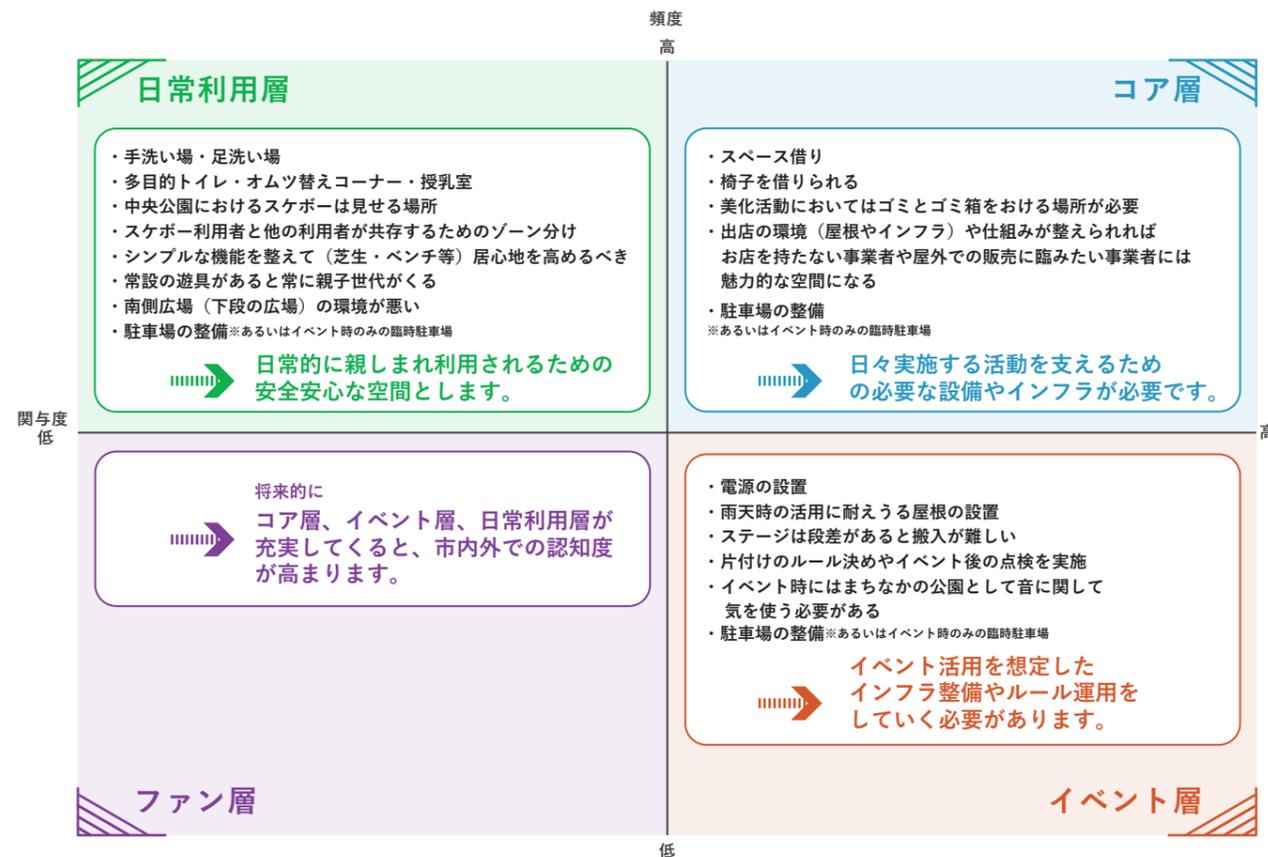


### 3-3 市民意見聴取

## 現状の公園の問題点や将来像についてアンケートを実施しました

現状の公園の利用や利用者の属性に関する分析に加えて、実際に公園に関わる市民の意見聴取を行いました。2つの市民意見聴取（プレイヤーヒアリング・市民アンケート）を行うことで新しい中央公園における機能を整理し、未来ビジョンに活かします。

プレイヤーヒアリング：令和3年（2021年）9月にWEB・対面にて実施



#### 中央公園の魅力について

- 駅や狩野川との近さ
- 狩野川・緑・都会が共存している
- まちなかの広いスペース
- 木陰の存在

#### Park-PFIについて

- Park-PFIにするなら、ある程度の規模があり、集客が見込まれる事業者とするべきである

- 公園に参入するのは地元の事業者が良いと考えるが、公園の顔となるような中心的な店舗があった上で規模の小さな民間事業者のトライアルができると良い

#### 課題について

- 中央公園へ行く目的が少ない
- まちなかに子どもたちの居場所がないので、子どもを遊ばせる場所など親子世代に魅力的であれば日常的な利用が増える（子どもが遊べる＆保護者の居場所がある）
- リラックスして過ごすための基本的な機能を整える

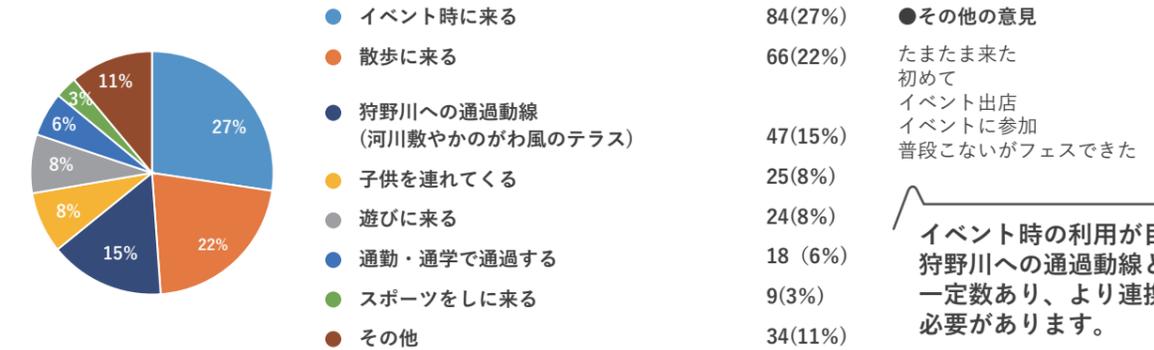
#### 将来像

- 狩野川との連携を強化すべき、橋の上や香貫公園等、敷地内に収まらない活用を視野に入れると良い
- 狩野川、緑、都会が共存していると、まちなかの公園として近隣住民により利用される公園であるべき
- ストリートカルチャーは長く受け継がれている文化なのでそれを上手く昇華させて公園の整備ができると良い

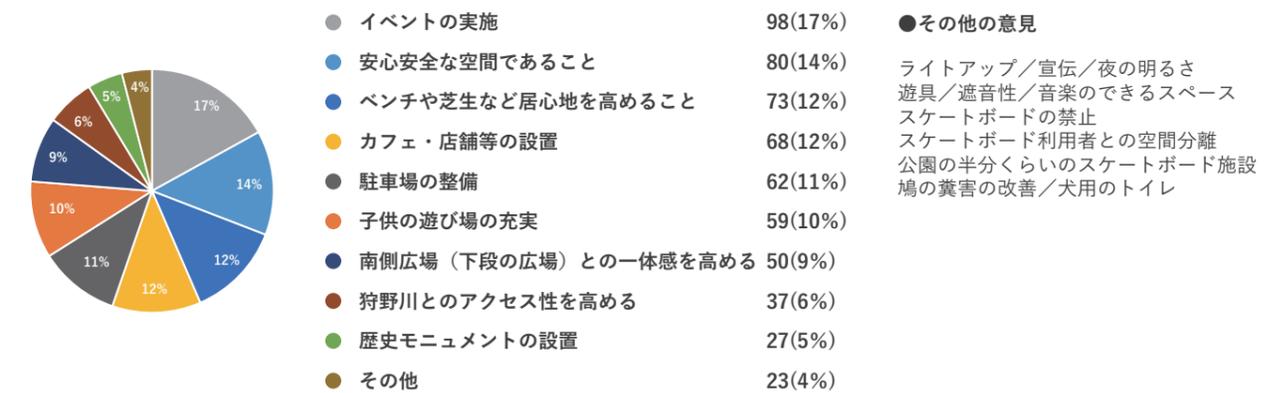
#### 市民アンケート：回答の抜粋

令和3年（2021年）11月の週末の沼津でのアンケートと、郵送やWEBによるアンケートを2回実施しました。中央公園の現状や課題、将来像について選択式・一部記述式の回答形式です。アンケート回答の全集計結果は参考資料に示しています。

#### Q1 中央公園には普段何をしにきますか。（複数回答可）

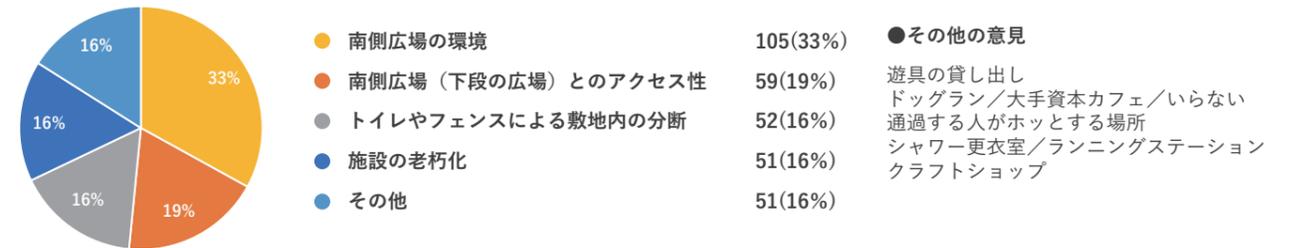


#### Q4 中央公園がより利用されるために重要なことはなんでしょうか。（複数回答可）



各項目の意見が一定数あり、引き続きのイベント実施と安全安心な空間が求められています。

#### Q6 現状の公園において問題と思われるものをお選びください。（複数回答可）



南側広場の環境やアクセス性を問題とする意見が多く見られます。

## 3-4 中央公園の課題

現状の使い方やヒアリング・アンケートを通して  
中央公園の再整備における課題を整理します

## 課題1

## 老朽化した施設、芝生の生育不良への対応

老朽化したトイレや舗装の刷新を行う必要があります。また、令和元年度まで利用されていた、公園東側（民間施設跡地）ランニングステーション跡地にも今後の利活用に対応した整備や高木の緑陰による芝生の生育不良に対応する必要があります。



施設の老朽化



トイレ



木陰による芝生の生育不良

## 課題2

## 公園内外へのアクセシビリティの改善

※アクセシビリティ：利用しやすさ・移動のしやすさ

公園のトイレ、フェンス、高低差による分断や狩野川への動線がわかりにくい等の問題を改善し、公園全体のアクセシビリティを高めるデザインとする必要があります。



トイレ、段差、フェンスによる分断



大きな高低差による複雑な動線



狩野川との接続の悪さ

## 課題3

利活用に対応した使いやすい  
空間レイアウト計画

沼津の中心部を牽引してきた様々なイベントや活用実績が豊富にあります。様々な利活用が見られる中で、中央公園全体を最大限活用できない現状について、各イベントのレイアウトや要件を整理し、使いやすさを最大化した、施設レイアウトとインフラ整備が必要です。



イベント対応したゾーニング



日常利用に対応したゾーニング



利活用に対応可能なインフラ

## 課題4

多様なアクティビティを  
受け入れる公園運営の仕組みづくり

※アクティビティ：活動

市街地の中心的なオープンスペースにも関わらず、多様な利活用が共存しにくい状況です。子どもの居場所やスケートボードの若者、憩いの場など多様な人が集まる、まちなかならでの公園運営や、再整備による新たな利活用を受け入れられる運営を想定し、仕組みづくりを行う必要があります。



週末の沼津



豊田市 新とよパーク



豊島区 IKE・SUN・PARK